

科目名 都市経済学特論演習
Title Advanced Study of Urban Economics , Seminar
科目区分 M特論演習 (1年次)

准教授 米本 清 (ヨネモト キヨシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

都市・地域経済学は経済学の中でも最も現実の世界と密接に関わらざるを得ない分野の一つである。本演習では、大学院レベルの手法を学び、都市・地域経済学の理論を実際の社会・経済問題に応用して分析する。研究テーマは受講者が教員と相談の上、決定する。教員の専門に近いテーマ、すなわち都市内の空間構造や都市・地域間のシステム、人口移動、災害、選好関連などのテーマが望ましいが、その他地域の課題一般を経済学の理論を用いて分析するものも可とする。

達成目標

都市・地域経済学のトピックを主体的に理解し、大学院生として研究の準備を整えた上、実際に研究を開始して基礎的な成果を得ることを目標とする。
大学院生は学部生とは異なる研究への真摯な姿勢、論文作成力、倫理観、アカデミックな世界に関する理解などが必要とされる。学期末までに、これらを一定水準にまで高めるよう努力を求める。

スケジュール

【1年次】

- 第1回～第2回 導入：受講者の準備状態を確認し、参考書等を選び、今後の研究希望を確認する。
第3回～第8回 輪読：受講者で共通の参考書（分野の基本的文献）を輪読し、議論する。
第9回～第14回 文献まとめ：各自、自分の研究に直接かかわる文献を読んで順番に発表し、受講者で議論する。
第15回 前期まとめ：研究テーマを固めて発表する。
第16回～第17回 研究への導入：休み中に収集した資料や進めた研究について順番に発表し、受講者で議論する（研究にあたっての注意点などを確認する）。
第18回～第23回 研究対象に関する発表：各自で研究対象の現状やその動向、関連研究・資料などについて調査し発表、受講者で議論する。
第24回～第29回 初歩的な結果の発表：自ら立てた仮説と収集した資料に基づき、基礎的・試行的な分析や考察を行ってその結果を発表、受講者で議論する（外部調査などを行う者は一部実施するか、実施直前の段階まで進めてフォーム等を受講生に提示する）。
第30回 まとめ：一年間の研究成果まとめ、M1中間報告会の準備をする。

【2年次】

- 第1回～第2回 導入：1年次の研究を見直し、2年次への導入を行う。
第3回～第8回 メインの研究とその報告：修士課程における中心的な研究を実行し、ゼミ内で報告する。
第9回～第14回 応用研究とその報告：研究を再検討するとともに、応用研究を行ってゼミ内で報告する。
第15回 前期まとめ：前期のまとめをし、M2中間報告会に向けて課題を設定する。
第16回～第17回 後期導入：M2中間報告会を踏まえて研究の再検討をする。
第18回～第23回 修士論文の執筆：研究をとりまとめ、修士論文の執筆を行う。外部発表などを行う場合、その準備を進める。
第24回～第29回 論文の完成と審査準備：修士論文を完成し、論文審査や口頭試問の準備を行う。
第30回 まとめ：一年間の研究成果をまとめる。

教科書・参考文献

教科書 必要性を考慮しつつ、その都度決める。

参考書 その都度、配布する。

授業外での学習

自分の回の発表に備えて学習・研究を行い、スライドや論文の作成を進めること。

評価方法

演習における発表と議論への参加 (50%)
研究の実行 (50%)

履修上の注意

本教員は大学院生に対しては学部生よりかなり高度な研究水準と、研究等に対する真摯な態度を求める。本教員の学部の授業や、大学院における他の教員の指導より、「厳しい」と感じられる可能性もあるので、そのつもりで履修すること。

科目名 都市地理学特論演習
Title Advanced Study of Urban Geography , Seminar
科目区分 M特論演習 (1年次)

教授 佐藤 英人 (サトウ ヒデト)
担当教員 佐藤 英人 (サトウ ヒデト)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

現代の都市問題に焦点をあて、都市地理学や経済地理学の視点から問題を提起し、解決する方法を検討して、自らの研究成果を発表する手段を学ぶ。毎回数名から報告を求め、その報告をもとに討論する。前期は各自の問題関心に基づいて文献研究を行い、後期は修士論文の執筆に向けた立論ならびに調査方法を議論する。

達成目標

発表や討論を通じて、問題自己発見能力、問題自己解決能力、プレゼンテーション能力の素養を高めることが本講義の目標である。

スケジュール

- 第1回 前期のガイダンス
- 第2回 問題関心についてのプレゼンテーション (1)
- 第3回 問題関心についてのプレゼンテーション (2)
- 第4回 問題関心についてのプレゼンテーション (3)
- 第5回 文献リストの作成 (1)
- 第6回 文献リストの作成 (2)
- 第7回 文献研究 (1)
- 第8回 文献研究 (2)
- 第9回 文献研究 (3)
- 第10回 文献研究 (4)
- 第11回 文献研究 (5)
- 第12回 文献研究 (6)
- 第13回 調査実務の検討 (1)
- 第14回 調査実務の検討 (2)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期のガイダンス
- 第17回 夏季休暇中の調査報告 (1)
- 第18回 夏季休暇中の調査報告 (2)
- 第19回 夏季休暇中の調査報告 (3)
- 第20回 改善点・修正点の検討 (1)
- 第21回 改善点・修正点の検討 (2)
- 第22回 改善点・修正点の検討 (3)
- 第23回 改善点・修正点の検討 (4)
- 第24回 改善点・修正点の検討 (5)
- 第25回 改善点・修正点の検討 (6)
- 第26回 修士論文の執筆に向けた立論 (1)
- 第27回 修士論文の執筆に向けた立論 (2)
- 第28回 修士論文の執筆に向けた立論 (3)
- 第29回 修士論文の執筆に向けた立論 (4)
- 第30回 後期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に定めない。

参考書 野間晴雄ほか編著『ジオ・パルNEO[第2版]:地理学・地域調査便利帖』海青社, 2017
梶田真ほか編著『地域調査ことはじめ-あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版, 2007

授業外での学習

世の中で起こっている出来事に関心を持ち、自分自身の意見や考えを整理しておくことが望ましい。また、各自でさまざまな地域に赴いて、地域を見る目を養ってほしい。

評価方法

討論への参加度 (70%)、レポートの完成度 (30%) によって評価する。

履修上の注意

発表者が無断欠席した場合、履修停止 (不合格) となるので注意すること。

科目名 行政法特論演習
Title Advanced Study of Administrative Law , Seminar
科目区分 M特論演習 (1年次)

教授 担当教員
新田 浩司 (ニッタ ヒロシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本演習では、行政法の基礎知識を踏まえ、演習生各自が現在の行政法に関わる問題を明確にし、修士論文またはフィールドリサーチペーパーの作成を指導教員が個別的に支援する。1年次は各種文献を購読していきながら各自の修士論文のテーマを決めることを目的とする。各自の作成した研究計画に基づき、具体的な作業工程表を設定する。テーマを設定した後、当該領域に関わる先行研究・文献を広く渉猟し、研究テーマの変更、仮説の設定に関する助言などを通じて、博士前期課程における研究計画を着実に遂行する。研究テーマは、学問的動向に加え、社会的な有意性を十分に勘案し設定していく。

達成目標

- ・ 研究者あるいは高度専門職業人としての基礎を固め、博士前期課程の標準的な研究水準に到達することにより、フィールド・リサーチペーパーまたは修士論文を完成する。
- ・ 研究者または高度専門職業人としての学術技法の基礎を身につけ、論文執筆のための基本的なアカデミックスキルを修得した上で、1年次及び2年次の中間報告会に向けてプレゼンテーションの方法を修得する。

スケジュール

【1年次】

- 1回 研究計画の確認
- 2回～4回 学術論文技法の修得
- 5回～7回 研究テーマの再設定
- 8回～10回 研究計画の再設定
- 11回～13回 先行研究のレビュー
- 14回～15回 前期まとめ及び休暇中の課題設定
- 16回～18回 分析手法の設定
- 19回～21回 多変量解析の手法
- 22回～23回 社会調査法、統計資料
- 24回～25回 プレゼンテーション・スキル
- 26回～27回 学会誌等への論文投稿の準備
- 28回～29回 学会発表の準備
- 30回 M1中間報告会の準備 (1年次研究総括)

【2年次】

- 1回 1年次のフィードバック
- 2回～4回 研究計画の見直し
- 5回～6回 先行研究のレビュー
- 7回～10回 仮説の設定、調査項目の検討
- 11回～13回 分析手法の検討
- 14回～15回 前期まとめ及び休暇中の課題設定
- 16回～18回 M2中間報告会のフィードバック
- 19回～20回 分析結果の出力、解釈、考察
- 21回～22回 修士論文の構成についての検討
- 23回～25回 文章化、章割決定、論題の届け出
- 26回～27回 論文の修正作業 (学位審査基準対応)
- 28回～29回 修士論文の完成、口頭試問準備
- 30回 研究の課題と展望 (2年次研究総括)

教科書・参考文献

教科書 履修者と相談のうえ決定する。適宜指示する。

参考書 履修者と相談のうえ決定する。適宜指示する。

授業外での学習

新聞等で、行政法に関する話題に関心を持つこと。
判例を適宜精読すること。

評価方法

発表内容：50%、質問の仕方：20%：質問に対する応答の仕方：20%、参加態度：10%

履修上の注意

行政領域や他の法律科目も積極的に履修することが望ましい。
担当教員との連絡を密にすること。

科目名 現代政治学特論演習
Title Advanced Study of Contemporary Politics , Seminar
科目区分 M特論演習 (1 年次)

担当教員
教授 増田 正 (マスダ タダシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本演習では、現代政治学の研究分野のなかで、履修者本人のテーマ設定と問題意識に応じて、修士論文またはフィールドリサーチペーパーの作成を指導教員が個別的に支援する。さしあたっては、研究計画を再確認しながら、具体的な作業工程表を設定する。テーマ設定の後、当該領域に関わる先行研究・文献を広く渉猟し、研究テーマの変更、仮説の設定に関する助言などを通じて、博士前期課程における研究計画を着実に遂行することを目指す。研究テーマの設定に関しては、学問的動向のほかに、社会的な有意性を十分に勘案し、個人的な興味からのみ発想しないように、対話を重ねながら履修者との合意形成を図り、論文作成を実現化させていく。

達成目標

研究者または高度専門職業人に必要な学術技法の基礎を固め、博士前期課程の標準的な研究水準をクリアし、フィールド・リサーチペーパーまたは修士論文を完成させる。また、論文執筆のための基本的なアカデミック・スキルを修得し、1年次及び2年次の中間報告会に向けてプレゼンテーションの方法を修得する。

スケジュール

・ 1年次

1回 研究計画の確認
2回～4回 学術論文技法の修得
5回～7回 研究テーマの再設定
8回～10回 研究計画の再設定
11回～13回 先行研究のレビュー
14回～15回 前期のまとめ及び休暇中の課題設定
16回～18回 分析手法の設定
19回～21回 多変量解析の手法
22回～23回 社会調査法、統計資料
24回～25回 プレゼンテーション・スキル (パワーポイント)
26回～27回 学会誌等への論文投稿の準備
28回～29回 学会発表の準備
30回 M1中間報告会の準備 (1年次研究総括)

・ 2年次

1回 1年次のフィードバック
2回～4回 研究計画の見直し
5回～6回 先行研究のレビュー
7回～10回 仮説の設定、調査項目の検討
11回～13回 分析手法の検討
14回～15回 前期のまとめ及び休暇中の課題設定
16回～18回 M2中間報告会の準備及びフィードバック
19回～20回 分析結果の出力、解釈、考察
21回～22回 修士論文の構成についての検討
23回～25回 文章化、章割決定、論題の届け出、
論文の修正作業 (学位審査基準対応)
26回～27回 修士論文の完成、口頭試問準備
28回～29回 研究の課題と展望 (2年次研究総括)
30回

教科書・参考文献

教科書 履修者と相談のうえ決定する。

参考書 履修者と相談のうえ決定する。

授業外での学習

ほぼ毎回、履修者による中間報告がある。そのため、その事前準備作業を行うことと、講義内に受けた指導、アドバイスなどを踏まえ、次回の報告内容を改善するためのフィードバック作業を行うことが求められる。

評価方法

平常点で評価する (100%)。参加意欲、報告内容、理解度等を勘案して総合的に判断する。

履修上の注意

大学院科目に共通することであるが、欠席の場合、直接、事前連絡を義務付ける。政策形成コースを選択し、行政・政治研究領域の特論を多く履修することが望ましい。

科目名 政策評価特論演習
Title Advanced Study of Policy Evaluation , Seminar
科目区分 M特論演習 (1 年次)

教授 佐藤 徹 (サトウ トオル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

・わが国では、住民に対する説明責任 (accountability) と、政策決定プロセスの透明性 (transparency) の向上、地方分権の実践段階の到来、財政難への対応などを背景に、政策評価又行政評価のシステム導入やその検討が急速に進められてきた。しかしこれまでのところ評価システムが十分に機能しているとは言いがたい。運用上も様々な課題や困難に直面している。
・本演習では、国の政策評価または自治体の行政評価に焦点を当て、今後めざすべき“評価を核とした行政経営モデル”を明らかにするとともに、その制度デザインや機能要件について、さらなる考察を行う。

達成目標

第1は修士論文またはフィールドリサーチペーパーを作成することである。第2は既往研究を調査検討し、研究課題を適切に設定できるようになることである。第3はリサーチクエスション及び仮説を設定し、それらを検証するのに相応しい調査・分析技術を習得することである。

スケジュール

・ 1 年次

- 1 回 インTRODクシヨN (修士課程でめざすべきものの確認)
- 2 回 ~ 4 回 修士論文レベルの学術論文の作成手法の修得
- 5 回 ~ 9 回 学部時代の修得内容等に応じた基礎的知識の補足確認
- 10 回 ~ 12 回 国内外の政策評価・行政評価、公共経営等に関する先行研究論文の輪読とディスカッション
- 13 回 ~ 14 回 修士論文の骨格 (論題、研究目的、仮説の設定、研究の方法等) に関するプレゼンテーションと指導
- 15 回 前期の総括と今後の研究方針の検討
- 16 回 ~ 18 回 修士論文の骨格 (論題、研究目的、仮説の設定、研究の方法等) に関するプレゼンテーションと指導
- 19 回 ~ 20 回 先行研究論文の輪読とディスカッション
- 21 回 ~ 27 回 調査分析手法の学習指導 (定量分析、定性分析)
- 28 回 ~ 29 回 先行研究論文の輪読とディスカッション
- 30 回 1 年次の総括と M1 中間報告会の準備

・ 2 年次

- 1 回 ~ 4 回 修士論文の骨格 (論題、研究目的、仮説の設定、研究の方法等) に関するプレゼンテーションと指導
- 5 回 ~ 6 回 先行研究論文の輪読とディスカッション
- 7 回 ~ 10 回 リサーチクエスションと仮説の設定
- 11 回 ~ 14 回 調査分析の方法の検討確定
- 15 回 前期の総括と今後の研究方針の確定
- 16 回 ~ 18 回 M2 中間報告会のフィードバック
- 19 回 ~ 21 回 分析及び結果の考察
- 22 回 ~ 25 回 修士論文構成の検討、原稿作成と指導
- 26 回 ~ 27 回 論文の修正 (学位審査基準対応)
- 28 回 ~ 29 回 修士論文の完成と口頭試問の準備
- 30 回 2 年次の総括

教科書・参考文献

- 教科書 『エビデンスに基づく自治体政策入門』 (佐藤徹編、公職研、2021 年) 。その他必要に応じて演習の中で指示する。
- 参考書 必要に応じて演習の中で指示する。

授業外での学習

政策評価関連の基本書や論文をすすんで読み進めること。また、関連文献などを適宜参照し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

平常点 (100%) 、期末試験 (0%) 。

履修上の注意

- ① 授業は、Zoom を使ってリアルタイムで実施します。
- ② 平常点は、課題 (文献調査、プレゼンテーション、修士論文の進捗状況報告等) の遂行 (50%) 、ディスカッションでの発言 (50%) で構成される。
- ③ 行政に関する知識や経験が乏しい場合は、新聞やニュースなどに興味を持って、積極的に情報の収集・理解に

科目名 地域行政特論演習
Title Advanced Study of Local Public Administration , Seminar
科目区分 M特論演習 (1年次)

教授 岩崎 忠 (イワサキ タダシ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本演習では、自治体行政について履修者の研究関心に応じた修士論文、リサーチペーパーの作成指導を行う。特に、自治体政策、国と自治体の政府間関係、自治体の組織といった領域が主な研究対象となる。演習の方式は、まず、テーマを設定し、分析する視点を明確に定め、論文の構成、先行研究を記載したスケルトン(骨子)を作成してもらう。次に、スケルトン(骨子)について検討を行い、修正のうえ、論文執筆に必要な指導を行う。論文作成にあたっては、履修者と十分にコミュニケーションをとった上で、社会的に有意義な研究になるようにしたい。

達成目標

- (1) 研究者あるいは高度専門職業人としての基礎を固める。
- (2) 修士論文を作成するための基礎を固める。
- (3) プレゼンテーション、論文作成のための学問的技術を身につける。

スケジュール

・ 1年次

- 第1回 研究計画の確認
- 第2回から第4回 学術論文技法の修得
- 第5回から第7回 研究テーマの再設定
- 第8回から第10回 研究計画の再設定
- 第11回から第14回 先行研究のレビュー(1)
- 第15回 前期まとめ及び休暇中の課題設定
- 第16回から第18回 先行研究のレビュー(2)
- 第19回から第21回 分析手法の設定
- 第22回から第25回 調査方法検討
- 第26回から第28回 プレゼンテーション・スキル
- 第29回 学会誌への論文投稿スキルの準備
- 第30回 M1 中間報告会の準備(1年次研究総括)

・ 2年次

- 第1回 1年次のフィードバック
- 第2回から第4回 研究計画の見直し
- 第5回から第6回 先行研究のレビュー
- 第7回から第10回 分析手法の検討
- 第11回から第13回 調査項目の検討
- 第14回から第15回 前期まとめ及び休暇中の課題
- 第16回から第18回 M2 中間報告会のフィードバック
- 第19回から第20回 調査結果の分析
- 第21回から第22回 修士論文の構成についての検討
- 第23回から第25回 文章化、論題の届出
- 第26回から第27回 論文修正作業(学位審査基準対応)
- 第28回から第29回 修士論文完成、口頭試問準備
- 第30回 研究の課題と展望(2年次研究総括)

教科書・参考文献

教科書 磯崎初仁『自治体政策法務講義(改訂版)』第一法規、2018年

参考書 講義中に具体的なテーマに即して適宜指示する。

授業外での学習

ほぼ毎回、履修者による中間報告がある。そのための事前準備をしっかりとって特論演習に出席すること。また、講義内に受けた指導・アドバイスなどを踏まえ、次回報告内容を改善するためのフィードバック作業を行うことが求められる。

評価方法

平常点により評価する(100%)。参加意欲、報告内容、理解度等を勘案して総合的に判断する。

履修上の注意

担当教員との連絡を密にとり、できるだけ外部の学会・研究会に参加し、新しい知見を得ること。また、本学においては、政策形成コースを選択し、行政・政治研究領域の特論を多く履修することが望ましい。

科目名 環境科学特論演習
Title Advanced Study of Environmental Science , Seminar
科目区分 M特論演習 (1年次)

教授 飯島 明宏 (イイジマ アキヒロ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 4	開講時期 通年
-----------	------	----------	------------

目的

環境政策の立案や評価、環境人材の育成に資する研究テーマを設定する。その上で、環境問題の背景にある要因を分析し、因果関係を定量的に評価するための理論と方法について探究する。当該分野の先行研究をレビューし、フィールド調査、環境データの収集、統計解析、モデリング等の手法を身につけることを目的とする。

達成目標

各自の研究の推進において必須となる知見、手法を習得し、修士論文の基礎を築くことを目指す。

スケジュール

・ 1年次
1回 研究計画の確認
2回～10回 先行研究のレビュー
11回～14回 調査計画の立案
15回 前期まとめ及び休暇中の課題設定
16回～20回 解析手法の検討
21回～25回 データ解析
25回～29回 結果の速報および解析方法の再検討
30回 M1中間報告会の準備 (1年次研究総括)

・ 2年次
1回 1年次のフィードバック
2回～4回 研究計画の点検
5回～6回 先行研究のレビュー
7回～10回 データ解析
11回～14回 学会発表の準備
15回 前期まとめ及び休暇中の課題設定
16回～20回 結果の考察
21回～22回 修士論文の構成についての検討
23回～25回 文章化、章割決定、論題の届け出、
26回～27回 論文の修正作業
28回～29回 修士論文の完成、口頭試問準備
30回 研究の課題と展望 (2年次研究総括)

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

研究ノートを作成し、計画的に調査やデータ解析を進めること。また、必要に応じて研究室にて指導を受けること。

評価方法

研究の進捗状況報告、学会発表等の取り組みを総合的に評価する (100%)。

履修上の注意

可能な限り、学部ゼミの運営・活動に協力すること。

科目名 生涯学習特論演習
Title Advanced Study of Lifelong Learning , Seminar
科目区分 M特論演習 (1 年次)

教授 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本演習では、少子高齢化や地方分権等による地域構造の変容、市民活動や社会参加の高まりといった状況のもとで現れる市民の学習構造を多様な角度から分析し、求められる新たな地域生涯学習システムについて明らかにしていく。関連する文献の購読やフィールドリサーチを中心に展開する。

達成目標

本演習では、①自らの研究関心のもと先行研究を踏まえた研究課題を明らかにすること、②フィールドリサーチに関する調査対象の明確化、及び必要に応じた予備調査の実施、③本調査実施に向けた研究計画の作成を到達目標とする。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 問題関心の整理及び研究計画の作成
- 第3回 問題関心の整理及び研究計画の作成
- 第4回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集
- 第5回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集
- 第6回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集
- 第7回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集
- 第8回 フィールドリサーチに関する計画及び調査内容の検討
- 第9回 フィールドリサーチに関する計画及び調査内容の検討
- 第10回 フィールドリサーチに関する計画及び調査内容の検討
- 第11回 予備調査の報告・検討
- 第12回 予備調査の報告・検討
- 第13回 分析視角の構築
- 第14回 分析視角の構築
- 第15回 分析視角の構築
- 第16回 中間報告
- 第17回 追加予備調査の報告・検討
- 第18回 追加予備調査の報告・検討
- 第19回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集 (その2)
- 第20回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集 (その2)
- 第21回 先行研究のレビュー及び研究対象に関する情報収集 (その2)
- 第22回 本調査に関する計画及び調査内容の検討
- 第23回 本調査に関する計画及び調査内容の検討
- 第24回 本調査に関する計画及び調査内容の検討
- 第25回 調査結果の報告・分析
- 第26回 調査結果の報告・分析
- 第27回 分析視角の検討
- 第28回 分析視角の検討
- 第29回 追加調査に関する計画及び調査内容の検討
- 第30回 追加調査に関する計画及び調査内容の検討

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜、必要に応じて紹介する。

授業外での学習

次回の演習範囲に関連する内容について、演習内で指定 (配布) した資料などを予習しておくほか、紹介する先行研究や文献に関連した情報を積極的に収集すること。また、演習後は必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

取り組み姿勢等の受講状況 (50%)、及び演習課題の達成状況 (50%) から総合的に評価する。

履修上の注意

特になし。

科目名 観光経営特論演習
Title Advanced Seminar on Tourism Management I
科目区分 M特論演習 (1年次)

担当教員
教授 井門 隆夫 (イカド タカオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本演習では、履修者は観光経営に関する問題意識に基づき研究テーマを設定し、修士論文執筆・リサーチペーパー作成に向けた研究指導を行う。M1年次においては、先行研究のレビューと研究計画の作成、エスノグラフィーの手法を用いた一次調査等を行い、論文の構成を確定させる。

達成目標

- ① 問題意識を深め、修士論文またはリサーチペーパーの構成を決定する。
- ② 研究テーマに応じた必要な先行研究レビューやフィールドにおける一次調査を行う。
- ③ 研究者あるいは高度職業人としての基礎を固める。

スケジュール

- 第1回 演習の進め方と目標の共有
- 第2回 研究テーマの設定とアプローチ手法の検討①
- 第3回 研究テーマの設定とアプローチ手法の検討②
- 第4回 研究計画素案の作成
- 第5回 先行研究のレビュー①
- 第6回 先行研究のレビュー②
- 第7回 研究計画の修正・加筆
- 第8回 先行研究のレビュー③
- 第9回 先行研究のレビュー④
- 第10回 オリジナル調査を含む研究計画作成
- 第11回 調査手法の検討①
- 第12回 調査手法の検討②
- 第13回 調査実施内容の確認
- 第14回 研究計画書の完成と確認
- 第15回 前期のふりかえりと夏季休暇中の研究課題の確認
- 第16回 夏季休暇中の研究成果報告と課題整理
- 第17回 研究計画書の修正・加筆
- 第18回 先行研究のレビュー⑤
- 第19回 先行研究のレビュー⑥
- 第20回 中間報告に向けた修正・追加調査等実行計画の確認
- 第21回 修士論文の構成の確認
- 第22回 中間プレゼンテーション
- 第23回 中間報告に向けた追加研究の報告と討議①
- 第24回 中間報告に向けた追加研究の報告と討議②
- 第25回 中間報告に向けた追加研究の報告と討議③
- 第26回 学会発表聴講を終えて(討議)
- 第27回 中間報告に向けた追加研究の報告と討議④
- 第28回 中間報告に向けた追加研究の報告と討議⑤
- 第29回 中間報告準備と1年間の成果と課題の整理
- 第30回 1年を終えて(プレゼンテーション)

教科書・参考文献

教科書 特になし。

参考書 小田博「エスノグラフィー入門」春秋社。その他適宜紹介する。研究領域に応じた専門誌は定期的に購読し現在起きている事象や課題は常に把握しておくこと。

授業外での学習

毎回討議・発表用のレジュメを作成してくるほか、研究計画に基づき各自で必要な一次調査を行う。

評価方法

演習への主体的な参加 40%
成果物のクオリティ 60%

履修上の注意

毎回、演習生によるアウトプットを主体とする運営となるので、主体的かつ積極的な参加を求めます。

科目名 地域史特論演習
Title Advanced Study of Regional History , Seminar
科目区分 M特論演習 (1年次)

教授 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期
通年

目的

本演習では、歴史学・地域史の史料を用いた研究方法を習得し、各自の問題関心に基づいたテーマ設定、論文執筆ができるように指導をする。特に、歴史研究においては史料講読が必須であるので、史料を使いこなした研究ができるようにする。

達成目標

自己の問題関心に基づいた史料を、自ら発掘し、史料を用いた研究、特に活字化されていない文書も利用した研究ができるようになる。

スケジュール

- ・ 1年次
- 1回： ガイダンス
- 2回～3回： 卒論等これまでの研究について発表
- 4回～6回： 古文書史料の講読
- 7回～8回： 研究書の輪読
- 9回～10回： 修論構想発表
- 11回～13回： 古文書史料の講読
- 14回～15回： 修論構想・研究計画書の見直し検討
- 16回～17回： 休暇中の研究成果発表と修論構想の確認
- 18回～19回： 研究書の輪読
- 20回～21回： 古文書史料の講読
- 22回～23回： 研究書の輪読
- 24回～25回： 修論中間報告会への準備報告
- 26回～27回： 研究書の輪読
- 28回～30回： 修論中間報告への課題設定修正・検討と総括
- ・ 2年次
- 1回： ガイダンス
- 2回～3回： 中間報告会をふまえて研究計画の見直し
- 4回～5回： 史料講読と発表
- 6回～7回： 修論構想報告①
- 8回～11回： 史料講読と発表
- 12回～13回： 修論構想報告②
- 14回～15回： 史料講読と発表
- 16回～17回： 休暇中の研究成果報告と確認
- 18回～19回： 修論構想報告③
- 20回～22回： 史料講読と発表
- 23回～24回： 修論構想報告④
- 25回～27回： 修論各章の構成・内容確認
- 28回～29回： 修論の仕上げと内容確認
- 30回： 修論研究の総括と口頭試問準備

教科書・参考文献

教科書 受講者と相談の上、適宜指示をする。

参考書 必要に応じて、適宜紹介する。

授業外での学習

基礎的な歴史事項や史料の読み・意味(解釈)については、十分に調べて準備しておくと共に、授業後においては史料解釈やそこからの発展事項について復習し定着を図ること。

評価方法

報告・質疑状況等を総合的に判断し、平常点(100%)で評価する

履修上の注意

地域史研究には史料講読が必須です。史料、できれば古文書を読む意欲のある人を望みます。授業は対面出実施を予定していますが、受講者との相談の上、オンラインで実施する場合があります。